

<TAC>無断複写・複製を禁じます

新春から始める税理士試験学習術

TAC税理士講座

目 次

ページ

テーマ1 税理士への道	1～5
テーマ2 受験計画	6～8
テーマ3 新春からの学習プラン	9～13

テーマ 1

税理士への道

税理士は、納税者の納税義務が適正に実現されるための業務を行うと同時に、国の財政等に直接関係する業務を行っており、社会的に重要な職業です。さらに、その業務内容は、従来からの税務業務や会計業務にとどまらず、経営コンサルティングや国際税務など多岐にわたっています。

ただし、税理士として業務を行うためには、税理士試験に合格しなければなりません。ここでは、税理士試験の詳細について、データとともに紹介致します。

◆ 1 税理士試験の概要

税理士試験は、例年8月上旬の平日3日間に行われ、合格発表は、例年12月中旬に行われます。税理士試験の特徴として、科目選択制度と科目合格制度があります。

◆ 2 科目選択制度

科目選択制度とは、税理士試験の試験科目全11科目から5科目を選択することができる制度です。試験科目の中には、下記の表で示すような必須科目・選択必須科目等の制約もありますが、この制度により科目選択にかなりの幅が認められています。

会計科目	必須	簿記論 財務諸表論	会計科目は、必ず合格しなければなりません。
税法科目	選択必須	法人税法	法人税法または所得税法のどちらか1科目以上は合格しなければなりません。
		所得税法	
	選択	相続税法	選択科目のうち、酒税法と消費税法、事業税と住民税はどちらか1科目しか選択できません。
		酒税法 or 消費税法	
		固定資産税	
		事業税 or 住民税	
		国税徴収法	

◆3 試験科目の内容

1 必須科目

科 目	特 徴
簿 記 論	企業の経営活動をどのように記録し、計算するかを学習する科目です。試験は制限時間2時間で3問出題され、第1・2問は大学教授が出題するため学問的、第3問は実務家が出題するため実務的な問題が出題されています。
財務諸表論	株主等に報告するための財務諸表（報告書）を作成するまでの考え方や約束事について学習する科目です。試験は理論と計算に分けて出題され、理論は会計に関する考え方について論述式により、計算は会社法等の法律等に従って実際に財務諸表を作成する形式で出題されています。

2 選択必須科目

科 目	特 徴
法 人 税 法	会社の儲けに対して課される税金について定めた法人税法という法律の考え方を学習する科目です。試験は理論と計算に分けて出題され、理論は法人税の規定を論述させる形式で、計算はある会社の納付すべき法人税額までを求めさせる具体的な形式で出題されています。
所 得 税 法	私たち個人が1年間に稼いだ儲けに対して課される税金について定めた所得税法という法律の考え方を学習する科目です。試験は理論と計算に分けて出題され、理論は応用問題と個別問題をそれぞれ論述させる形式で、計算は自営業を中心とした個人の納付すべき所得税額までを求めさせる具体的な形式で出題されています。

3 選択科目

科 目	特 徴
相 続 税 法	財産が無償で個人から他の個人に渡った場合に財産を取得した者に課される税金について定めた相続税法という法律の考え方を学習する科目です。試験は理論と計算に分けて出題されますが、簿記の知識を必要とせず、理論と計算は密接に関連しているため、効果的な学習が可能な科目といえます。
酒 税 法	アルコール飲料に対して課される税金について定めた酒税法という法律の考え方を学習する科目です。試験は理論と計算に分けて出題され、理論は酒税法の体系的な理解を問う問題が多く、計算は酒類製造業者の1月間に出庫した酒類に対して納付すべき酒税額を求めさせる具体的な形式のものが出題されています。
消 費 税 法	消費税は、商品の販売やサービスの提供などに対して課税され、価格に上乗せされて最終的には消費者が負担する間接税で、事業者が預かった税金を計算する科目です。試験は他の科目と同じように理論と計算に分かれて出題されます。税理士の実務で最も重要な科目のひとつといえます。
固定資産税	土地・家屋・償却資産といった固定資産に対して課される税金について定めた地方税法という法律の中の固定資産税編についてその考え方を学習する科目です。出題傾向が安定していて学習しやすく、他の科目と同じように理論と計算に分かれて出題されています。
事 業 税	事業活動を行う法人又は個人は公共施設の利用が不可欠であり、この公共施設の維持・保護等の経費負担として都道府県がその事業者に対して課する税金が事業税です。試験は通常、理論を中心に出題され、特に第1問の理論の内容が事例問題であるため合否のカギとなっています。なお、法人税に関する知識があれば効率的に学習できます。
住 民 税	所得のある個人及び法人等に対して課される税金で、地方税法に定められている都道府県税及び市町村民税に関する部分を総称したものです。試験は理論と計算に分けられ、理論は個人または法人から2問、計算は総合問題が出題されます。なお、所得税に関する基礎知識があれば、効率的に学習できます。
国税徴収法	国税徴収法は単に国税の徴収のみならず、地方税等の徴収のベースとなっている大切な法律です。試験の出題はその殆んどが論述形式の理論問題と短答問題で占められています。法律がどのように関連しているのか理解することを目的としているため簿記の知識は全く必要ありません。

◆4 科目合格制度

科目合格制度とは、1科目ずつ受験することができ、1度合格した科目は生涯有効になる制度です。つまり、1度の受験で5科目すべてに合格する必要はなく、毎年少しずつ合格科目を積み重ねることにより、複数年かけて5科目合格を達成すればよいのです。したがって、1年に1科目ずつ確実に合格し、5年計画で税理士になる資格を取得することも可能です。

また、科目合格の段階でも評価され、就職や転職に当たり有利に働くことも、科目合格制度のメリットです。つまり、ライフスタイルや将来プランに合わせて受験でき、一歩ずつステップアップしながら、着実にゴールを目指すことができます。

科目合格制度のポイント

- 1度で5科目合格する必要はなく、1科目ずつ受験できる
- 受験科目ごとに合否が判定され、合格科目は翌年以降の試験が生涯免除される
- ライフスタイルや将来プランに合わせて受験できる
- 科目合格の段階でも評価される（就職・転職に断然有利！）



一歩ずつステップアップしながら、確実に税理士資格を取得できる！

◆5 合格基準

税理士試験の合格基準は、各科目ともに満点の60%（すなわち60点）となっていますが、出題される問題の難易度やボリュームに関わらず、各科目の合格率は、ほぼ10～15%で毎年安定しています。つまり税理士試験は、全受験者のうち上位10～15%の人が合格する**競争試験**といえることができます。

◆6 税理士試験に合格するためには

税理士試験は、どの科目の出題もボリュームが多く、2時間という制限時間内にすべてを解答できる問題はほとんど出題されません。しかしながら、**本試験では問題のすべてを解答する必要はありません**。満点の60%（つまり60点）以上が、公表されている合格基準だからです。

また、難易度については、年によりかなりバラツキがあります。ある年の合格ラインはTACでの予想配点で70点位、明くる年では40点位というように、簡単な年と難しい年では約30点もの開きがあります。では、なぜ毎年一定の合格率を保っているのでしょうか？

実は、正解率の高い解答箇所の高い配点を置き、正解率の低い解答箇所は配点を軽くする等の採点上の調整が行われているのです。したがって、難しい箇所が解答できたか否かではなく、受験生の多くが解答できる基本的事項をどれだけ確実に得点したかで、合否は決まります。

合格のポイント

- ・ 2時間では解けきれないボリュームの問題が毎年出題される
- ・ 難易度に関係なく毎年一定の合格率を保っている
- ・ 合否をわけるのは基本的事項の正解率



基本的事項をしっかり固め、それを確実に得点していくことが大切！



参 考 最近5年間の科目別合格率の推移

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
簿記論	12.5%	14.2%	9.9%	12.5%	14.8%
財務諸表論	15.2%	16.1%	16.0%	13.1%	16.6%
法人税法	12.3%	11.0%	12.1%	12.6%	12.5%
所得税法	12.7%	12.8%	13.4%	14.3%	13.4%
相続税法	9.8%	12.4%	14.7%	13.9%	11.6%
酒税法	10.2%	10.8%	10.4%	12.3%	12.3%
消費税法	10.1%	13.3%	12.4%	12.3%	13.7%
固定資産税	14.1%	10.3%	10.0%	10.5%	12.2%
事業税	9.6%	10.1%	13.8%	11.9%	17.1%
住民税	15.0%	14.6%	18.2%	16.2%	16.5%
国税徴収法	10.9%	11.1%	11.3%	12.1%	13.3%

テーマ 2

受験計画

税理士試験の受験計画を立てるにあたっては、「長期的目標（何年で5科目に合格するか?）」と「短期的目標（最初の試験でどの科目を受験するか?）」の2つを明確に持って下さい。

◆1 長期的目標（何年で5科目に合格するか?）

「何年で5科目に合格するか?」は、「学習に充てられる時間がどれくらいあるか?」、「どの科目を受験するか?」等によって左右されますが、学生等、受験に専念できる環境にある方は2～3年、仕事との両立を目指す社会人の方は3～5年位を目安にするのが一般的です。

なお、税理士試験の各科目は、下記の通りボリュームがマチマチです。ボリュームの少ない科目を組み合わせることで、仕事をしながらでも1年で複数科目の合格も可能となります。

標準学習時間 ボリューム	600時間	法人税法	所得税法	
	450時間	簿記論	財務諸表論	相続税法
	300時間	消費税法		
	250時間	固定資産税		
	200時間	事業税	住民税	
	150時間	酒税法	国税徴収法	

（注）標準学習時間には、TACでの講義時間を含みます。なお、学習時間は個人差がありますので、目安としてお考えください。

◆2 短期的目標（最初の試験でどの科目を受験するか?）

長期的目標が定まったならば、次に「最初の試験でどの科目を受験するか?」を決めましょう。なお、その際には、次の点に留意してください。

1 1週間あたりの学習可能時間を正確に見積もる

どれだけ能力のある方でも、学習に充てる時間が不足していると、良い結果を得ることはできません。次の表で1週間あたりの学習可能な時間を計算してみましょう。

（単位：時間）

	月	火	水	木	金	土	日	合計
可処分時間								

2 各科目の特徴を把握する

税理士試験の各科目には、「簿記知識が必要な科目とそうでない科目」、「初めての受験に向いている科目とそうでない科目」というようにそれぞれ特徴があります。これらを把握して、適切な受験科目の選択を行って下さい。

(1) 各科目の簿記知識の必要性

簿記の知識が不要な科目	相続税法	酒税法	固定資産税	国税徴収法
簿記3級の知識が必要な科目	消費税法	事業税		
簿記2級の知識が必要な科目	簿記論	財務諸表論	所得税法	
簿記論・財務諸表論の知識が必要な科目	法人税法			
所得税法の知識が必要な科目	住民税			

(2) 初めての受験に向いている科目

簿記論・財務諸表論といった会計科目は必須科目であり、その知識は法人税法等の学習において役立ちます。また、これらの科目は、同時に学習すると相乗効果が得られます。しかし、それぞれボリュームがあるため、いずれか1科目選択するのであれば、簿記論をおすすめします。

(3) 2回目以降の受験に向いている科目

法人税法・所得税法といった選択必須科目はボリュームが多いことから、学習スタンスが確立した2回目以降に受験されることをおすすめします。また、事業税・住民税は、法人税法・所得税法と深く関連することから、これらは法人税法・所得税法と同時もしくは学習後に受験するのが好ましいです。

3 科目選択の具体例

学 習 時 間 ↑ ↓	週30時間程度	簿記論 + 財務諸表論
	週25時間程度	簿記論 + 税法科目(ボリューム少)※
	週15時間程度	簿記論
	週10時間程度	税法科目(ボリューム少)※

※ 消費税法・酒税法・固定資産税・国税徴収法のうち、いずれか1科目



参 考 オプション講座のご紹介

1 簿記入門コース

税理士試験の会計科目（簿記論・財務諸表論）を学習するにあたり、日商簿記検定2級（商業簿記）程度の知識が必要になりますが、この知識は簿記入門コースで得ることができます。

簿記は全くの初心者という方は簿記入門Ⅰ（全8回）より、日商簿記検定3級レベルの知識をお持ちの方は簿記入門Ⅱ（全8回）より受講しましょう。なお、「簿記の勉強をしたのが、かなり昔なので不安だ！」という方は、簿記入門Ⅰから受講することをお勧めします。

簿 記 初 心 者 の 方

簿 記 3 級 レベル の 方

簿 記 入 門 Ⅰ

⇒

簿 記 入 門 Ⅱ

⇒

税 理 士 試 験 科 目

2 簿記論先取り学習講座

速修コース・簿記論を申し込まれた方は、「簿記論先取り学習講座」をビデオ(DVD)講座・Web通信講座にて無料で受講できます。

当講座(全4回)では、日商簿記検定2級レベルの方を対象として簿記論で出題される未学習論点の先取り学習を行います。開講までの時間を有効活用すべく当講座を受講し、1月からスタートダッシュを決めましょう！

学 習 論 点

①特殊商品売買

②税金

③社債

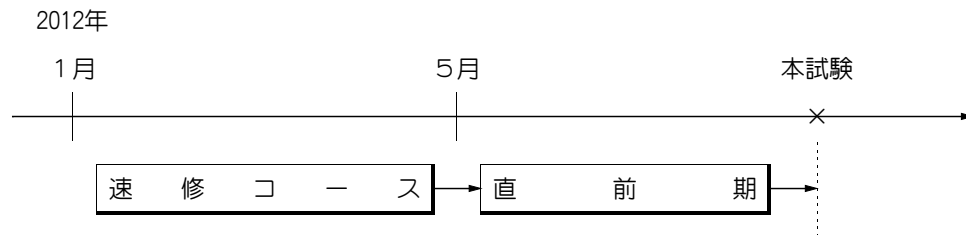
④有価証券

⑤人件費

テーマ 3

新春からの学習プラン

◆ 1 学習コースの紹介



(1) 速修コース

初めて学習される方を対象に短期合格を狙うコースで、専用カリキュラムにより効率的に学習を進めていきます。具体的には、各月ごとに7回の講義と1回の実力テストを行い、講義回ではミニテスト（前回の講義内容についての確認テスト）を毎回実施します。また、実力テストでは、各月の学習内容に関する確認問題を出題します。

(2) 直前期

5月から本試験直前までの3カ月間において、講義と演習を交互に実施します。

講義回では、本試験の試験委員の分析を行うとともに、4月までの学習内容についてのまとめを行います。また、演習回では、「実力完成答練」及び「直前予想答練」といった目的の異なる演習を行い、どんな問題が出題されても十分対応できる実践力を養います。

また、全国最大級の規模での公開模試(全答練)も実施します。これにより、全受験生の中での自分の位置を正確に把握することができます。



参 考 欠席時のフォローシステム

TAC税理士講座では、教室の講義を欠席した場合のフォローシステムを充実させております（パンフレット参照）。具体的には次のものがあります。

- 1 クラス自由出席制
- 2 カセットダビングサービス
- 3 音声DL（ダウンロード）フォロー
- 4 Webフォロー（有料）
- 5 ビデオ（DVD）フォロー制度（有料）

◆2 学習メディアの紹介

1 教室講座

日程表のスケジュールに従って教室へ通学し、講師の迫力ある生講義を受講する学習スタイルです。学習のペースがつかみやすく、講師へ直接質問することで疑問点も即解決します。

2 ビデオ（DVD）講座

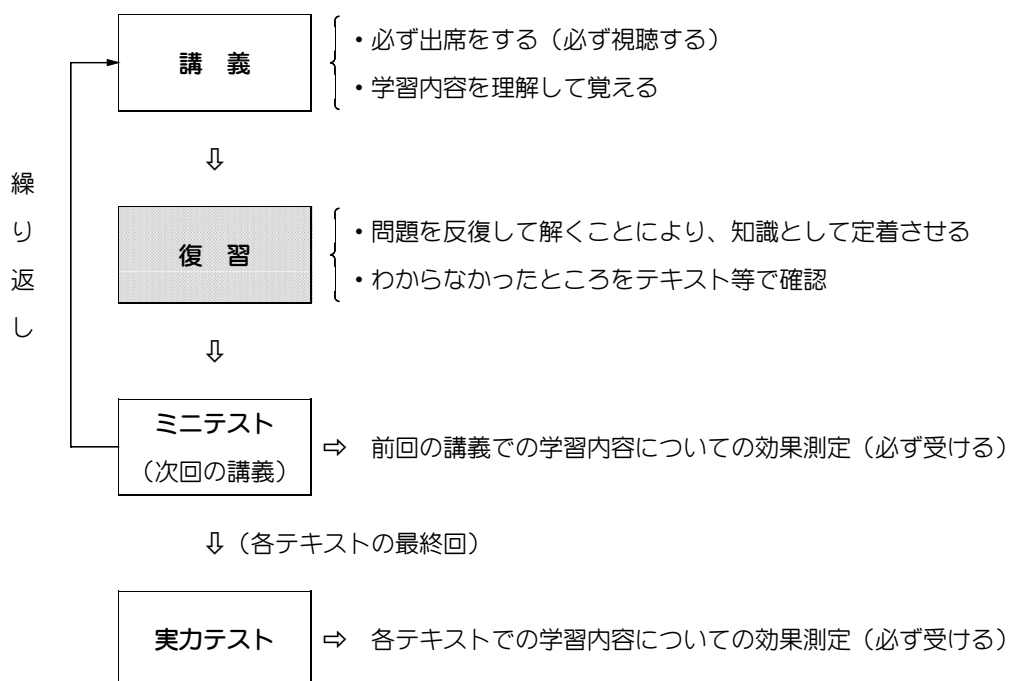
ビデオ（DVD）講座とは、TACのビデオルームにて講義の視聴をしていただく形態の学習メディアです。視聴日程については、各自の都合に合わせて自由に決められます。ただし、あらかじめ予約が手続が必要となりますのでご注意ください。

3 通信講座

時間的制約等の理由により通学できない方向けに、自宅に居ながらにして通学しているのと同じ効果が得られるように、TACでは通信講座による学習メディアに力を注いでおります。具体的な通信講座の学習メディアは次の通りです。

- (1) 映像＆音声学習メディア ⇒ Web＋DL通信講座、DVD通信講座
- (2) 音声学習メディア ⇒ カセット通信講座

◆3 具体的な学習の流れ



(1) 講義

学習を進めるうえで、最も重要なのは学習内容を正確に理解して覚えるということです。講師陣自らが作成したテキスト等を用いて、初学者の方にもわかりやすく講義を行いますので、必ず講義には出席（視聴）して下さい。

また、疑問点が生じたら、すぐ講師へ質問をするように心がけましょう。なお、講師への質問は、講義にて直接することができますし、質問電話やi-supportによるメールでの質問にも対応しています。

講師は、皆さんが学習を進めるための「ツール」です。どんどん活用して下さい。

(2) 復習

講義以外の学習については、基本的に復習のみでかまいません。その回の講義で学習した内容についてトレーニング等の問題を反復練習し、次の講義までに知識の定着化を図って下さい。また、わからなかった箇所は、テキストや**質問電話・i-support**等を利用してしっかり確認しましょう。

(3) ミニテスト・実力テスト

前回の講義での学習内容が定着できたかどうか効果測定するため、講義の冒頭でミニテストを実施します。また、テキストを一冊消化するごとにその内容が定着できたかどうか効果測定するため、実力テストも実施します。

必ずミニテストと実力テストは、受けて自分の実力を確認するように心がけましょう。

◆4 教材体系とその利用法

1 基本テキスト

各科目で学習する計算についてまとめた解説教材です。難しい内容も図解等を使用して、分かりやすく解説しています。

2 理論テキスト

財務諸表論及び各税法科目で学習する理論についてまとめた解説教材です。難解な学習項目について詳細かつ分かりやすく解説しています。

3 講義アシストブック

各回の講義内容を効率よくインプットするために開発されたサブノート形式の教材です。講義を受けながらアシストブックを完成させることにより、学習項目を整理できます。

4 トレーニング

基本テキストに連動した演習教材です。講義での学習内容は、当教材を使用して反復練習します。毎回講義ごとに問題が明確に指示されているので、学習進捗度の指針にもなります。

5 システムカード

各科目の基本テキスト（理論テキスト）のエッセンスをまとめた手帳サイズの教材です。毎回の復習や試験直前のチェックに威力を発揮します。

6 理論マスター

税法の理論暗記に欠かせない必須アイテムです。難解な条文を完結かつスマートにアレンジし、受験生が覚えやすいように随所に工夫を施しています。

7 理論ドクター

税法の近年の応用的な理論の出題に対応した教材です。受験生が苦手とする事例問題や応用理論対策は、この一冊で万全です。

8 ミニテスト

前回の学習事項をチェックし、知識の定着を図る確認テストで、毎回講義の冒頭で実施します。これにより自分のウィークポイントも発見できます。

9 実力テスト

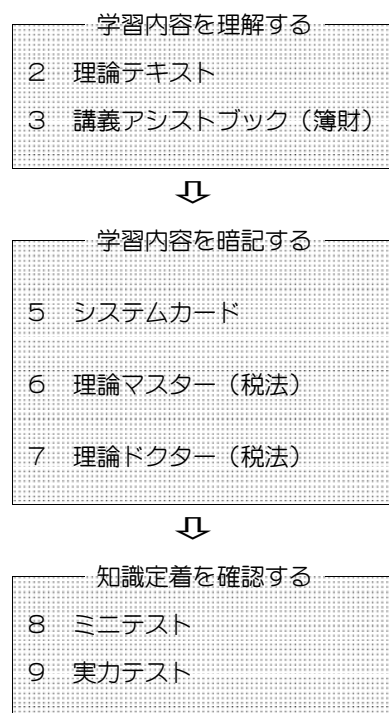
月1回実施するまとめテストです。1カ月間で学習した内容がどれだけ身に付いているのか確認できます。

12 各教材の利用法

計 算 の 学 習



理 論 の 学 習



最 後 に

本日は、お忙しい中、当セミナーにご参加頂きありがとうございました。

税理士という仕事は本当に魅力ある職業です。是非チャレンジして下さい。

TAC税理士講座一同、皆さんの1年でも早い税理士試験合格をサポート致します。